

日本イースト・ウエストセンター同友会

The Japan EWC Association

ニュースレター 第17号

1997年度日本EWC同友会総会へのお誘い

J E W C A 会長 渡辺 晴子

これまで東京の他、京都・名古屋で総会を開催してまいりましたが、今回は沖縄同窓会会長高山朝光様、JEWCA 幹事三浦徹様のご盡力により、多数の会員がおられます沖縄同窓会との交流をはかるため、那覇市(かりゆしアーバンリゾート那覇)で開催することとなりました。ちょうど当日は「那覇まつり」(ギネスブックにも載った大綱挽が有名です)とも重なり、多数の催しも行われております。この機会にぜひ、沖縄を訪れていただきたく、出席のほどお誘い申し上げます。

なお、沖縄同窓会の方々のご好意で、10日午前10時と、午後3時半に、それぞれ異なるコースで、観光ツアーが実施されます(かりゆしアーバンリゾート那覇・1階ロビー集合)。

すでに、会員の方には連絡のハガキが届いていることと存じますが、お早めに返信くださるよう、お願い申し上げます。また、返信ハガキに委任状がありますので、欠席の方もご返送ください。

なお、本土から沖縄へは各種パッケージツアー(例:JTB フリータイム沖縄=羽田発

52,000円より、MY PLAN 沖縄=関空発55,000円より)を利用されますと便利です。お一人で参加される場合、割高ですので、事務局でとりまとめをさせていただきます。ツアーのご利用希望の方は、至急事務局までお問い合わせください。

記

J E W C A 総会 IN 沖縄

日時: 1997年10月10日(金)19:00~21:00

場所: かりゆしアーバンリゾート那覇
(那覇空港より車15分)沖縄県那覇市前島3-25
tel. 098-860-2111)

会費: 6,000円

事務局(東京)三浦 徹 03-3330-1389

(京都)浜野 潔 075-864-6222

hamano@kyotogakuen-u.ac.jp

10年毎のリユニオン開かれる

1996年度総会は、12月5日(木)午後6時30分より、東京・有楽町の外国記者クラブで行われました。国賓級ゲストのメニューも担当されている高木シェフが自ら選んだ特別料理を囲み、東京での総会では近年もっとも多い25名の会員が集まり、盛大な催しとなりました。

総会の冒頭、渡辺会長から活動報告が行われました。同友会会員も年々、その数が増えて現在名簿に掲載されているメンバーが900人をこえていること。今後、同友会では会員相互の交流を計るため、総会を利用した「リユニオン(同期会)」を行うこと。また、数年来進めている、東京の会員と地方支部・沖縄同窓会会員の相互交流をますます促進することなどの方針が確認されました。

引き続き行われた事務局報告では、ニューズレターの15・16号が発行されたこと。来年(1997年)は名簿改訂の年にあたるので、総会出欠葉書などをもとに名簿の整備を行っていること。また、会計については、昨年度約100万円の会費収入があり、繰越金に約40万円の上積みをして、現在約150万円の残高があり、名簿発行に備えていること、などを事務局浜野が報告いたしました。

活動報告・事務局報告・会計報告ともに満場一致をもちまして承認をいただくことができました。

今回の目玉となる「リユニオン」は留学より数えて20周年、30周年の節目にあたる方々に同期生で集まっていただくことになっておりましたが、20周年(1976年度)は山下道子(経済企画庁、年度幹事)さんと佐藤正敏(シーメンス株)さん、30周年(1966年度)は清水泰子さん(大東文化大学、年度幹事)と恒川京子さん(東京いきいきらいふ推進センター)が出席され前後の年

度メンバーとも一緒に、旧交を暖めることができました。

今回のリユニオンにつきましては、年度幹事の清水さん・山下さんに、同期生の方々への連絡をお願いし大変お世話になりましたことを、この場を借りてお礼申し上げたいと思います。お陰様で、当日はハワイでの楽しい思い出話や、ご都合で出席できなかった皆様の近況もうかがうことができました。

次年度も、東京にて再びリユニオンを企画したいと考えております。その際は年度幹事の皆様にぜひ、ご協力いただきますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

会費納入のお願い

イースト・ウエストセンター同友会は、会員の皆さまからの会費により、名簿発行・ニューズレター発行・総会・支部活動・ハワイへの寄付などを行っております。昨年度も多数の会員の方々から会費の納入をいただきましたことを、厚く御礼申し上げます。

なお、会費納入にあたっては、地方支部に会費を直接払われた方は、その額を差し引いて納入いただいておりますので、その点ご理解いただくようお願い申し上げます。

なお、会費納入振込口座は以下の通りです。

- 本 部 00150-2-13497
(年会費5,000円。ただし、地方支部会員は3,000円)
- 関西支部 00920-9-125522
(年会費2,000円)
- 中部支部 00840-5-58210
(年会費2,000円)

1996年度 日本イースト・ウエストセンター同友会会計報告(1996.12.5)

月日	項目	支出	収入	内訳
	繰越金		1,090,930	
	銀行口座			190,125
	郵便振替口座			820,334
	郵便振替口座(2)			69,700
	手持ち現金			10,771
	総会会費収入(6,000円*18名)		108,000	
	会費収入		994,500	
		(本部:5,000円*	191名	955,000
		(支部:3,000円*	12名	36,000
		(海外:3,500円*	1名	3,500*
	寄付金		20,000	
	利息収入		295	
	小計		2,213,725	

支出の部

総会会場費	111,240
総会講演謝礼(2名)	60,000
ニューズレター第15号発行費用	159,965
ニューズレター第16号発行費用	118,645
関西支部払戻金	32,000
中部支部払戻金	28,000
阪神大震災被災学生へ寄付金	36,000
総会返信はがき代	45,000
事務経費(郵便代・バイト代など)	18,652
事務局経費(事務局長手当**)	120,000
小計	729,502

繰越金	1,484,223	
銀行口座		317,508
郵便振替口座		1,016,334
郵便振替口座(2)		69,700
手持ち現金		80,681
合計	2,213,725	2,213,725

1996年12月5日

上記の通り相違ありません。 会 計 浜 野 潔 印
会計監査 鑑 江 龍 一 印

* 海外よりの会費納入は、送金手数料を差し引いた金額
** 事務局経費は、事務局での通信費・交通費など幹事会で認められた金額

1996年度日本EWCA会費納入会員ご氏名
(年度別、1997年6月末現在)

- | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|
| [61年度]
新井 龍二
橋本 光郎
飯田 汲事
石島 英
伊藤 信徳
丸尾 譲
中司 哲
須藤 淳
東野 俊彦 | 内田 幸成
矢野 安剛
吉田 勝知
吉田 和夫 | 滝来 啓子
内山 鉄二郎
梅沢 時子
吉田 進
遊道 安隆 | [69年度]
土井 正生
堀口 純子
松本 宣光
三浦 徹
宮川 佳三
Nobuko Ochner
渡辺 信一
横田 安夫 | 後藤 和彦
石川 弘毅
箕 壽雄
森戸 由久
中野 貞三
坂本 悠貴雄
杉田 稔
田中 春美 | [82年度]
林 泉美
飯沼 芳樹
永井 道雄
吉田 興亞 |
| [62年度]
出村 和子
北條 和明
本間 恵子
井門 義男
神崎 恭郎
桂 幸昭
木村 正史
小玉 大園
岡田 妙
大山 綱夫
崎山 昭治
城間 理夫
田村 恭子 | [64年度]
青井 潔
榎本 吉雄
富士 裕
逸見 謙三
池本 明
稲葉 厚
地阪 隆三
梶村 光男
上村 和子
金子 洋子
小林 英治
松井 進平
湊 和夫
三輪 公忠
門田 光雄
村上 嘉一
中村 正枝
中野 圭二
崎原 盛造
竹前 栄治
田中 一郎
富山 正治
綿森 宣行 | [66年度]
茅野 直子
半藤 正夫
木羽 孝子
北野 康子
国師 三起子
宮城 文三
大城 堅靖
坂下 昌朗
柴野 章一郎
末広 稲子
照屋 真
恒川 京子 | [70年度]
星野 靖雄
桂 共太郎
国広 哲弥
中田 清一
大塚 尚夫
鈴木 良子
吉田 義法 | [75年度]
長谷川 浩一
川畑 泰 | [83年度]
上川 陽子
加藤 剛
小泉 明
永野 芳宣
高桑 栄松 |
| [63年度]
馬場 房子
Dutta千鶴子
海老原 真
平敷 令治
伊波 静男
泉 清人
金子 のぶ
辛島 篤美
宮内 猛
村田 勝弘
西村 清巳
西村 嘉太郎
野口 福次
太田 秀夫
斎藤 勝彦
珠玖 佳久子
寺村 公男
徳永 淳三
豊田 久承 | [65年度]
青木 進吾
飯塚 成彦
石川 淑子
岩城 禮三
金谷 茂
松川 初男
中村 敦夫
野田 寿
岡 久子
大城 常彦
佐藤 英次
佐藤 貢
清野 幸子
高田 宜美
竹村 憲一 | [67年度]
芦田 友秀
藤林 修一
藤田 文子
堀内 弘子
飯田 実
菊地 泰之
松岡 弘
仲松 弥三郎
西川 敏之
佐藤 之通
高坂 博章
柳沢 慧二 | [71年度]
松村 幹男
尾形 国治
大井 健次
斎藤 栄二
田代 茂夫
椿 弘次
上田 達
八木 近直
矢嶋 尚和
吉田 恵美子 | [76年度]
佐藤 正敏
山下 道子 | [84年度]
石田 雅近
嘉数 啓
草野 淳
中村 良廣 |
| [64年度]
青井 潔
榎本 吉雄
富士 裕
逸見 謙三
池本 明
稲葉 厚
地阪 隆三
梶村 光男
上村 和子
金子 洋子
小林 英治
松井 進平
湊 和夫
三輪 公忠
門田 光雄
村上 嘉一
中村 正枝
中野 圭二
崎原 盛造
竹前 栄治
田中 一郎
富山 正治
綿森 宣行 | [68年度]
石坂 和夫
片島 保志
仲野 英志
大城 信雄
塩入 激
高橋 正夫
田中 擴
屋比久 武
山内 昌和
山里 恵子 | [72年度]
羽多野 正美
岩田 紀
小村 幹夫
高島 昭一
呼子 行男 | [73年度]
鑑江 龍一
宮崎 公江
下島 俊雄
勝呂 譲
田中 靖政 | [77年度]
飯沼 健真
土屋 隆
渡辺 晴子 | [85年度]
浜野 潔
津谷 典子
横山 英世 |
| [65年度]
青木 進吾
飯塚 成彦
石川 淑子
岩城 禮三
金谷 茂
松川 初男
中村 敦夫
野田 寿
岡 久子
大城 常彦
佐藤 英次
佐藤 貢
清野 幸子
高田 宜美
竹村 憲一 | [74年度] | [79年度]
中山 行弘
西岡 秀三
高遠 宏
上原 秀樹 | [80年度]
早瀬 やすこ
小島 宏
三和 義彦
中山 恵津子 | [81年度]
藤木 典生
中臣 久
塚本 良則 | [89年度]
荒井 幹夫 |
| [66年度]
茅野 直子
半藤 正夫
木羽 孝子
北野 康子
国師 三起子
宮城 文三
大城 堅靖
坂下 昌朗
柴野 章一郎
末広 稲子
照屋 真
恒川 京子 | [70年度]
星野 靖雄
桂 共太郎
国広 哲弥
中田 清一
大塚 尚夫
鈴木 良子
吉田 義法 | [71年度]
松村 幹男
尾形 国治
大井 健次
斎藤 栄二
田代 茂夫
椿 弘次
上田 達
八木 近直
矢嶋 尚和
吉田 恵美子 | [72年度]
羽多野 正美
岩田 紀
小村 幹夫
高島 昭一
呼子 行男 | [73年度]
鑑江 龍一
宮崎 公江
下島 俊雄
勝呂 譲
田中 靖政 | [90年度]
荏開津 典生
小野 嘉孝 |
| [67年度]
芦田 友秀
藤林 修一
藤田 文子
堀内 弘子
飯田 実
菊地 泰之
松岡 弘
仲松 弥三郎
西川 敏之
佐藤 之通
高坂 博章
柳沢 慧二 | [74年度] | [79年度]
中山 行弘
西岡 秀三
高遠 宏
上原 秀樹 | [80年度]
早瀬 やすこ
小島 宏
三和 義彦
中山 恵津子 | [81年度]
藤木 典生
中臣 久
塚本 良則 | [92年度]
大江 守之 |
| [68年度]
石坂 和夫
片島 保志
仲野 英志
大城 信雄
塩入 激
高橋 正夫
田中 擴
屋比久 武
山内 昌和
山里 恵子 | [70年度]
星野 靖雄
桂 共太郎
国広 哲弥
中田 清一
大塚 尚夫
鈴木 良子
吉田 義法 | [71年度]
松村 幹男
尾形 国治
大井 健次
斎藤 栄二
田代 茂夫
椿 弘次
上田 達
八木 近直
矢嶋 尚和
吉田 恵美子 | [72年度]
羽多野 正美
岩田 紀
小村 幹夫
高島 昭一
呼子 行男 | [73年度]
鑑江 龍一
宮崎 公江
下島 俊雄
勝呂 譲
田中 靖政 | [93年度]
広辺 敏和
片桐 庸夫 |
| [69年度]
土井 正生
堀口 純子
松本 宣光
三浦 徹
宮川 佳三
Nobuko Ochner
渡辺 信一
横田 安夫 | [74年度] | [79年度]
中山 行弘
西岡 秀三
高遠 宏
上原 秀樹 | [80年度]
早瀬 やすこ
小島 宏
三和 義彦
中山 恵津子 | [81年度]
藤木 典生
中臣 久
塚本 良則 | [94年度]
加治 隆 |

震災の町神戸に寅さんを誘致

末延岑生(75年度)



昨年の阪神大震災で
自宅が全壊しましたが、
あの惨事の実っただ
中にお正月映画「男はつ
らいよ」シリーズ第48
作のロケを誘致、神戸市
民を勇気づけることが

できました。この映画は現代人の忘れかけている
人情、人間の温かさを描くもので、世界中にその
ファンを持ち、約3,500万人が鑑賞するといわれ
ています。ロケ成功までのいきさつを書かせてい
ただきます。

どんな災害時でもそうですが、一番の弱者は子
供とお年寄りです。避難所のコンクリートの廊下
は、逃げ遅れたお年寄りがひしめきあっている。
昔から神戸の福祉は全国でワースト3。見てのと
おりでした。3カ月が過ぎても国際都市ハイカラ
神戸の町は若者指向のスポーツやジャズのボラ
ンティアばかり。あげくは老人の孤独死と自殺。

そこで寅さんが登場する。お年寄りを助けるス
ーパーマンということで、それに寅さんの故郷葛
飾柴又は私の生まれ住んでいる神戸市長田区と
風情と人情の面でよく似ているのです。で、厚か
ましくも山田洋次監督と渥美清さんに手紙を書
きました。はじめは断られました。あきらめず
に娘の震災日記や映像資料などを何度も送りま
した。8月に入って夢のロケ実現の運びとなりま
した。

ロケ当日はお年寄りをはじめ延べ5千人以上
の市民がロケを取り巻きました。報道関係者が4
0社も集まり、トップ記事として全国に報道して

くれました。ロケが決まってから始めた「感謝の
署名運動」には、またたく間に3万6千余も。映
像学の権威、都築政昭氏は、「震災で打ちひしが
れた市民と、映画の架空の主人公がロケを通じて
こんなにも心が通じ合うというのは、映画史上画
期的な出来事だ」と賛えてくれました。

山田監督はロケ誘致の理由の一つに「見ず知ら
ずのおばあさんを震災直後から自宅に預かった
末延さん家族に感動した」ことを挙げてくれてい
ます。震災の次の朝、家族が無事でほっとする間
もなく、息子や娘から「お父さんは日ごろ“人を
助けて我身助かる”といっているくせに」と叱ら
れました。それで避難所にいた87歳のハナさん
を預らせて頂きました。はじめのうち、しっか
り者のハナさんは、毎朝3時には起きて、ご主人
の位牌に向かってしゃべりだす。寒いからと貴重
な布団を3枚も4枚もぶんどる。見慣れない料理
は絶対食べない。大雨の日には下着を買って来いと
言いつける。「人の奥さんあんまり使うな」と文
句を言うと、「年寄りをいじめるな」とくる。ま
さに異文化コミュニケーションです。

でも震災後の悲惨な日々のなかで、ハナさん
を中心とした私たち家族は、不思議と心が安まり、
半年間ほど見させて頂きました。ハナさんのこと
を山田監督に打ち明けたら大笑いしておられま
した。結局、ハナさんのお陰でロケが出来たんで
す。監督も「お陰で映画に深みがありました」と
いってくれました。私も監督も“人を助けて我が
身たすかる”です。

「寅さんを迎える会」を発足したら30人も集
まってくれました。すべて自前でしたが、自信が

できました。中でも、母親をこの震災で亡くしたという女性から運営資金を送ってくれたのが印象に残っています。行政からは国際都市神戸には寅さんは似合わないと言われました。神戸空港や35階建のマンション群を作ることが国際都市のシンボルだと勘違いしているのです。

映画はぜひ見て下さい。映画を通じて心暖かい寅さんを神戸の復興の象徴として位置づけ、全世界に向けて、神戸市民の感謝と復興への熱い思いを伝えたいのと、大震災の悲惨さが永久に世界に発信され、助け合う人々の美しい姿を見てもらうのが願いです。

本業の応用言語学の方では、本年度のアメリカの世界人名録(Marquis: Who's Who in the World, 13th ~ 15th Edition)に搭載されました。89年に商大研究所から出版した英文叢書 From Error To Intelligibility が認められたようで

す。震災の中、書き上げた2冊目 Communicability Within Errors をこの3月に大学から出版しました。日本もそうだけど世界の子供達は、日夜、文法学者達の厳格な英語教育理論にいじめられています。そんな間違った教育理論に一石を投じることができたら幸いです。

私も今年は寅さんと同じ56歳。渥美清さんとは一回り下ですが誕生日は3月10日で同じです。寅さんの生き方にあこがれ、“ことばは間違いながら学ぶもの”という「フーテン言語理論」をかざして27年。いつも笑われそしられて“奮闘努力の甲斐”あってか、寅さんのお陰です。人呼んで“言語学の寅”これからも頑張ります。この12月18日から一週間、世界英語学会で発表のため久しぶりに東西センターに参ります。

(96. 10. 18)

会員短信 (96年度総会出欠はがきより)

丸尾 譲 (61年度)

昨年3月広島大学を定年退官4月から兵庫県西宮市の聖和大学大学院に勤務しています。

吉國 隆 (61年度)

60の手習いで中国語の勉強を始めました。

出村和子 (62年度)

一昨年仙台で市民運動として、シニアのための市民ネットワークを設立。600名の会員を擁し、会長を引き受け、又、女性問題に取り組み、日本BPW連合会の副会長として活躍しています。

矢野安剛 (63年度)

96年9月、2年間の学科主任の雑用から解放されたところです。しかし、5年前に開設の大学

院教育学研究科修士課程、2年前に開設の同博士課程の両方で英語学のゼミを担当し、多忙は相変わらずです。8月にはフィンランドでの国際応用言語学会世界大会で、ヘンリー・ウイドラソン(ロンドン大)、バーバラ・サイデルホッフ(ウィーン大)を含めてシンポジウムを主催し盛会でした。

豊田久承 (63年度)

日本EWC同友会のニューズレターNo.16をありがたく拝受いたしました。私は、相変わらず元気で、鎌倉の自然を満喫する幸福生活を続けています。今でも33年前、ハワイ滞在時、お世話になった方々のご親切を思い出し、また、新聞紙上のハワイ関連記事を切り抜き、当時を偲びます。

寺島篤美 (63年度)

30年間ほぼ一貫して歌舞伎俳優の養成事業にあたっています。来年の新国立劇場(オペラハウス)オープンに向けて併せて忙しくしています。

宮内 猛 (63年度)

63年のTIPです。まだ現役で土曜日若い学生さんたちと勉強しています。

西村清巳 (63年度)

青年会議所の仕事で、去年に引き続き今週末からアメリカに行きます。11月初旬には帰りますが、来年も訪米の予定です。

上田和子 (64年度)

12月5日~8日まで沖縄に出張です。フルブライト奨励金制度が50周年を迎え、連日忙しくしている一方、EWCが「絶滅に瀕した種」のような様子で何ともやり切れません。死滅する前に同窓生として何かaction planは考えられないのでしょうか、「発展的解消」ということにならないよう(具体的には財政的支え)会合で話し合ってください。

小林英治 (64年度)

授業の他に時々講演を頼まれアジアでの経験を話しております。幸い「アジアブーム」ということで、中国や東南アジアに注目が集まっております。

村上嘉一 (64年度)

インターネットのおかげで海外とのコミュニケーションが大変便利になりました。毎日活用して頭脳をアップグレードしています。

森本皓昭 (65年度)

元気です。現職ですのでやや多忙です。家裁の調停もやっています。

金谷 茂 (65年度)

函館日米会長としてボランティア活動し、雑務をお手伝いしております。

茅野直子 (66年度)

大学の非常勤をしながら日本語教育に関する本を出版しております。

高坂博章 (67年度)

昨年の3月退職しました。悠々自適の生活をしています。

藤村修一 (67年度)

元気で英語を教えています。

大西駿二 (68年度)

官舎(横須賀市走水2-26J棟203)と香川県の自宅の二重生活をしています。『英語教育と英語学論考』(近代文学社)を出版し、これから『英国文豪の思想』を出版する予定です。

中野英志 (68年度)

1997年1月1日付で、日本アーキの代表取締役会長としてVBに乗り出す予定です。

石坂和夫 (68年度)

10月1日、神奈川県平塚市へ転居いたしました。今年度より国立教育研究所より岐阜教育大学(教授・国際交流部長)へ移りました。よろしくお願い致します。

横田安夫 (69年度)

昨年3月埼玉県立坂戸高等学校校長を最後に定年退職しました。現在は晴耕雨読の生活を送っています。

吉田義法 (70年度)

2月より1年間、ニュージーランドのMassey大学へ客員教授として赴任します。

大内 博 (71年度)

異文化間コミュニケーションの延長で異次元交流の本などを翻訳出版しております。

新田文輝 (75年度)

1994年6月にハワイから岡山県に移住し、当地の大学で社会人類学などを教えています。

杉浦久也 (75年度)

最近やっとインターネットを始めました。小生のE-MAILアドレスは次の通りです。

sugiura@chukyo-u.ac.jp

高橋 宏 (79年度)

96年11月中旬から2月上旬までJICAの調査事業のためアフリカ・エチオピア南西部の森林調査(土壌調査)に出かけます。

佐藤都喜子 (83年度)

ケニアに4年半滞在して、古巣のJICA国際協力総合研修所に戻りました。今や落ち着いた生活を楽しんでおります。海外出張が多い業務ですが、性に合っているのでも楽しく仕事をしています。皆様によろしくお伝え下さい。

草野 淳 (84年度)

大学では、時事英語と国際時事問題を教え、趣味は橋本竜太郎さんと同じ剣道です。

同友会への寄付

日本イースト・ウエストセンター同友会に対しまして、以下の方からご寄付をいただきました。この場を借りまして、深く感謝申し上げますと存じます。

坂本 悠貴雄様 20,000円

ハワイ大学スパーク・マツナガ記念Peace Institute 編平和詩アンソロジー *Heiwa*(1996)に拙作が入選しました。また、次の諸賞を受賞いたしました。

1. ノースウエスト大学フォーラム芭蕉没後300年記念芭蕉ハイク賞
 2. 英国ハイク協会俳句文学館賞
 3. アメリカ・ハイク協会俳句文学館賞
- 賞金の一部を同友会に寄付します。

大坂なんば City よみうり文化センターに開設された「英語ハイク教室」をS.H.Gill氏(立命館大学講師・英国ハイク協会会員)と二人で担当しています。

岡崎美智子様 5,000円

64年経営学ISI故岡崎司氏ご令室様。同期会の「いずみ会」を通じて、ご寄付いただきました。

編集後記

大変遅くなりましたが、ニューズレターの第17号をお届けいたします。今年度の総会は、冒頭記事にもありますように、はじめて沖縄で開催されることになりました。多数の会員のご参加をお待ちしております。

なお、今年度は名簿改訂の年にあっておりますが、来年2月に新郵便番号が導入されますので、それに合わせて改訂することにいたしました。今回も会費を納入された会員の皆様に来年春ごろお届けの予定です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

ニューズレター 第17号

編集発行 日本イーストウエストセンター同友会

発行者 渡辺 晴子

編集者 浜野 潔

621 京都府亀岡市曾我部町南条

京都学園大学経済学部 浜野研究室内

TEL. 0771-29-2301

FAX 0771-29-2389